

科目区分	専門教育科目	授業科目名	子どもの保健				科目コード	26Y307	担当者	三原 ミヨ子			担当形態	単独
対象学科・コース	幼児教育学科	配当年次	2年次	開講学期	春学期	単位数	2	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	保育士必修			
授業形態	講義	履修条件									教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分		
実務の経験を有する教員担当科目	該当	実務の経験内容及び科目との関連	大学病院において看護師勤務と看護師養成所での教員経験あり。子どもの健康・安全を守るため、医療現場や保育所実習施設において実際の出来事を交えながら根拠に基づいた講義を行う。									科目に含めることが必要な事項		

授業の主題	乳幼児の特性を理解し、ガイドラインを踏まえた保育の在り方を学ぶ。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	小テストは返却し、授業内で解説を行う。 リアクションペーパーを参考に、前時の振り返りや説明を行う。
授業の方法	パワーポイント・参考資料を配布し、教科書に沿って講義形式で授業を行う。 グループワークによる問題解決技法（事例検討）	アクティブ・ラーニングの実施方法	グループディスカッション、協働学習（ジグソー学習）、調べ学習を取り入れる。 Google classroomの活用

回数	授業計画	事前・事後学修	回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	オリエンテーション（シラバス、授業の概要を説明） 子どもの心身の健康と保健の意義	事前：シラバスを読み、授業内容を把握する。 教科書9～17ページを読む 事後：子どもの貧困・虐待について現状や課題について考えをまとめる	第9回	子どもの疾病の予防および適切な対応（1） アレルギー疾患の特徴、食物アレルギーのある子どもへの対応	事前：教科書84～92ページを読む 事後：子どもの疾病の予防と対応についてまとめる	
第2回	生物としての人の成り立ち 妊娠・出産について	事前：教科書19～20ページを読む 事後：妊娠・出産について学びを深め、留意点についてまとめる	第10回	子どもの疾病の予防および適切な対応（2）	事前：教科書94～99ページを読む 事後：子どもの疾病と予防と対応についてまとめる	
第3回	乳幼児期における身体の発育・発達	事前：教科書20～29ページを読む 事後：各月齢・年齢に応じた発達の特徴をまとめる	第11回	子どもに起こりうる事故とその予防（1）	事前：子どもに起こりうる事故事例について調べる 事後：事故防止、安全対策について振り返りまとめる	
第4回	生理機能の発達と保健	事前：教科書30～40ページを読む 事後：生理機能についてまとめる	第12回	子どもに起こりうる事故とその予防（2）	事前：子どもに起こりうる事故事例について調べる 事後：災害時の対応や心のケアについて振り返りまとめる	
第5回	発達に即した基本的生活習慣の形成	事前：教科書41～56ページを読む 事後：基本的生活習慣の形成のための関わりについてまとめる	第13回	発達障害について	事前：発達障害について知る 事後：発達障害の種類、特徴についてまとめる	
第6回	子どもの心身の健康状態とその把握	事前：教科書59～69ページを読む 事後：子どもの健康状態の把握と心に寄り添う関わりについてまとめる	第14回	乳幼児期・学童期・思春期の精神発達とヘルスポモーション	事前：各年齢における発達課題について知る 事後：各年齢に応じた関わりをまとめる	
第7回	子どもの疾病の予防及び適切な対応 感染症と予防接種	事前：教科書73～79ページを読む。予防接種について調べる 事後：感染症についてまとめる	第15回	保護者との情報共有と家族の支援 振り返りとまとめ	事前：これまでの講義を振り返り、疑問点があれば質問できるように控えておく 事後：試験に向けこれまでの講義内容の理解を深める	
第8回	小テスト、感染症について	事前：教科書80～84ページを読む 事後：家庭や園でできる感染症の予防対策について考える			事前・事後 学修時間 (分/授業1回)	180分/授業1回

教科書 [書名/著者名/出版社]	子どもの保健/中根淳子・佐藤尚子/ななみ書房	受講生への メッセージ	子どもの身体的な発育や発達に関心を持ち、子どもの心身の健康状態における観察の仕方を理解していくことが大切です。保育者として、子どもに多くみられる疾患や感染症予防、事故防止対策など正しい知識を持ち、子どもたちが安心して過ごせる環境づくり、保育の実践ができるよう共に学びましょう。
参考書 [書名/著者名/出版社]	授業で現場で役に立つ 子どもの保健テキスト/小林美由紀/診断と治療社		

評価基準																
学修成果の大分類	学修成果の中分類 [10の力]	配点学修成果の比率 (%)	評価方法の配点比率 (%)					学修成果の小分類			尺度					
			定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法/評価指標	レベル5 (S : 100~90%)	レベル4 (A : 89~80%)	レベル3 (B : 79~70%)	レベル2 (C : 69~60%)	レベル1 (F : 59%以下)
卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	尽心	① 学習意欲														
		② 規律性														
	知識・技能	③ 知識														
		④ 技能														
	創造	⑤ 情報活用能力														
		⑥ 課題解決力	50	20	10	5	5	10	子どもに起こりうる事故を予測し、危険箇所・改善箇所を挙げることができる	状況判断能力、観察力	筆記試験、小テスト、授業内での発表・発言	子どもに起こりうる事故をしっかりと予測でき、危険箇所・改善箇所を十分に挙げることができる	子どもに起こりうる事故をしっかりと予測でき、危険箇所・改善箇所を挙げることができる	子どもに起こりうる事故をある程度予測でき、危険箇所・改善箇所を挙げることができる	子どもに起こりうる事故をある程度予測でき、危険箇所・改善箇所を挙げることができる	子どもに起こりうる事故が予測できず、危険箇所・改善箇所を挙げることができない
	表現	⑦ 言語活用能力	50	30	10			10	子どもの特徴を理解し、適切な保健指導について説明できる	伝える力	筆記試験、小テスト	子どもの特徴を十分に理解し、適切な保健指導について説明できる	子どもの特徴を十分に理解し、適切な保健指導についてある程度説明できる	子どもの特徴を理解し、適切な保健指導について説明できる	子どもの特徴をある程度理解し、適切な保健指導について説明できる	子どもの特徴への理解不十分で、適切な保健指導について説明できない
		⑧ コミュニケーション力														
	実践	⑨ 主体性														
		⑩ 協働性														
合計		100	50	20	5	5	20									